

# ホテルのニュースレター

日本ホテルの会 2004/12 第31号

## 126の瞳が輝いた！！

日本ホテルの会理事（里川螢） 山本矩正

輝いたのは、今年の1学期の、小学校3年生の総合学習の時である。里川螢は、平成11年より3年生の授業を1年間を通して受け持っている。テーマは“ゲンジボタル”、その小さな昆虫から、自然の大切さや命の尊さを教えている。

フィールドでは4月、雨の降る夜に、終令



浄土下でのホテル観察

虫の上陸の様子を見てもらう。浄土下に集まった生徒は10人程だった。初めて見た親がびっくりして、大変感激して帰られたのが印象的だった。5月下旬から6月いっぱい、

夜のホテルを思う存分楽しんでもらう。又、日曜日の昼間、葉影で休む成虫を観察していただいたりしている。他に5月はプールの水抜きの時、水深10cmほど水を残してもらい、低学年全員でアキアカネやシオカラトンボのヤゴを捕まえて、前にあるビオトープに放流している。やがて夏休みに入る前、親子でヤゴの上陸の様子や、羽化の様子を観察する。そして昼間の校庭で、元気良く飛ぶアキアカネを見ることができる。秋に帰ってくることを約束しているかのようだ。

教室では、前の3年生が1年間ゲンジボタルを飼育した水槽を引き継ぐ。幼虫は3月に庭のビオトープに放流し、残ったカワニナを各組で育てる。

6月上旬に養殖箱の苔に産み付けられた卵を、ルーペを使って観察する。そして同時に成虫の観察。オス、メスのちがいや触角の動き、足の使い方等、皆真剣だ。下旬、黒ずんだ卵と中で動く幼虫を観察する。7月、孵化したばかりの幼虫を、顕微鏡を使っての観察



成隣小学校3年生の合同授業

となる。この時は「ヤースゴイ」「ホジラだ!!」とか「ムジラだ!!」とか教室内は大賑わい。そして各組の水槽に幼虫を10匹ずつ入れ、大事に育てる。夏休み中は私達のメンバーが預り、世話をする。

さて春先からニューフェイスがかかわってくれることになった。その人は長年某テレビ局でカメラマンをしていた方で、幼虫の上陸をリアルに撮りたいと申し出があった。4月初旬から、雨の降り出しそうな日も含め、浄土下に張り付いた。何回かの失敗もあった。

雨が途中で止んでしまい方向転換するもの、動かなくなってしまうもの、強風で飛ばされてしまうもの。自然が相手だからどうにもならない。4月も終わるころ、最後のチャンスがやって来た。大きなメスの終令虫である。80cmのコンクリートの壁を20分ほどで登った。カメラを濡らさないように、光を当てる事に夢中になり、気が付いたら私の腰の下は濡れだった。その様子を12分間のビデオにまとめていただいた。

このビデオを、今年最初の授業に放映した。今まで騒がしかった教室がシーンと!! 夢中で石垣を登るもの。途中で上陸を断念するもの。石の陰で一休みするもの。登り切ってやれやれと一呼吸するもの。休まず土まで這い上がるもの。水中で川虫のご挨拶に驚き思わずピカピカ光るもの。それは生きた映像である。

1学期はゲンジボタルの一生の中で、この時期観察できるものを通し、遅しく生きる様子や、命の尊さを勉強してもらっている。

## ムネクリイロボタル幼虫の越冬について

板当沢ホタル調査団 小俣軍平

### 1 はじめに

陸生のホタルの1種、ムネクリイロボタルの幼虫の越冬場所、並びに越冬状態については今まで、落ち葉の間、落ち葉の下、土の中、放置木の下等、様々な憶測がされていましたが、解明はされておりませんでした。そこで、

私たちは2003年12月末から2004年3月末まで、延べ日数52日間にわたり、東京都八王子市館町の多摩丘陵の一角でこの問題の謎解きに取り組みました。以下の報告はその時のものです。

## 2 調査経過

(1)調査地 東京都八王子市 館町 池の  
澤保全緑地



(2)調査方法 上図のような場所で落ち葉を  
掃き採り、地面に寝ころんで木のヘラで地面  
を2~4cmの深さで慎重に掘り進めていき  
ます。根気と集中力を要求されます。

(3) 調査結果

### ①土の中から

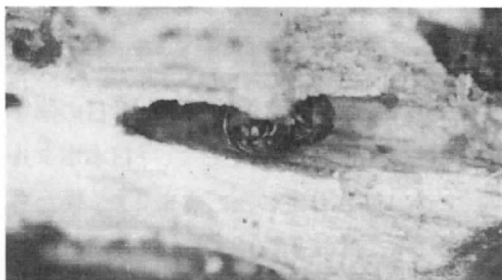
数日して最初の幼虫がみつかりました。腐  
葉土の中3cmほどの深さの所に自然にでき  
た隙間に、「つ」の字形に丸まって横たわっ  
ていました。



同じような形で5頭の幼虫が次々にみつかり  
ました。幼虫は、掘り出されて、光が当た  
るとゆっくりと体を伸ばして、近くの土の中  
に逃げ込みをはかりました。この事で、ムネ  
クリの幼虫は休眠とはいっても、まったく  
眠ってしまうわけではないようです。

### ②放置木の中から

2月になって、土の中に埋もれて腐食した  
コナラの枝（直径4cm程で長さが40cm程）  
を調べてみたらこの中にもいました。



カミキリの穿った穴の中に「つ」の字形に  
丸まって静止していました。これも木を堀崩  
されると光が当たり、ゆっくりと体を伸ばし  
て外にはい出して来ました。

同じ放置木でも、地上に転がっていたり、  
落ち葉がかかった状態のものにはいません  
でした。土の中の浅いところに埋もれている  
と言うことも一つの条件になっているようです。

## 3 おわりに

この池の沢では、結果的に52日間で10頭  
のムネクリイロボタルの幼虫がみつかりまし  
た。そのうち土の中にいたものが7頭、放置  
木の中にいたものが3頭でした。この場所は、  
夏の間に、陸生ホタルの成虫が、ムネクリイ  
ロボタル・カタモンミナミボタル・オバボタル  
と3種類みつかっていました。落ち葉の下  
には、7種類の陸貝が生息していましたが、そ  
の中でも、ムシオイガイ（殻径3~5mm）が、  
最大で1㎡に400~2000頭もいました。これ  
には驚きというより、たまげてしまいました。

陸生のホタルの幼虫で腐食した木の中で冬  
越しするものは、今まで分かっているのは、  
オオオバボタルだけでしたが、今度ムネクリ  
イロボタルがみつかったことで、2種類にな  
りました。

## 「日本ホタルの会」を訪問して

岐阜県平田町立平田中学校 3年 ホタル追求グループ

近藤誓哉・川瀬誠・近藤雄平・森 啓  
飯島功士・伊賀貴典・内堀真弓(教諭)

僕たち6名は、9月15日から17日の修学旅行に総合学習の研修として、「日本ホタルの会」を訪問させていただきました。僕たちがホタルについて追求活動を始めたきっかけは、僕たちの町、岐阜県平田町にはたくさんの川があるにもかかわらず、ホタルを見ることができないからです。また、昔は平田町にもホタルがいたことを知り、『ホタルを平田の川に戻したい』と思い、ホタルのすめる環境や生態について学習を始めました。ただホタルを川に戻したいという思いだけでなく、現在の川の状態を調べ、どうすればホタルのすめる環境にしていけるかについても考え、そのことを多くの人に知ってもらいたいと思いました。

これまでの活動として、ホタルのいる川へ出かけて水質や川の生物を調べ、川やその周辺の環境について調査しました。また、ホタルの飼育をしている町内の小学校へ行き、ホタル池の見学もさせていただきました。また、インターネットや本で調べ学習も進めてきました。

修学旅行では、「日本ホタルの会」の方々に研修のお願いをしたら快く応じていただき、とても嬉しかったです。研修の内容は、とても興味のあることばかりで、初めて知ったことや、驚いたことがたくさんありました。例えば、岐阜県にしかないコクロオバボタルです。このホタルは、60年ほど前にオスの成虫が発見されました。とても小さく、山の中

に生息するため、メスや幼虫はいまだに見つかりません。僕たちが住む岐阜県のコクロオバボタルのことを、みんなに知ってもらいたいと思いました。また、世界に生息するホタルのことも教えていただきました。

幼虫のことや、えさについてもお話を伺いました。ゲンジボタルやヘイケボタルに代表されるように、幼虫は水中にいてカワニナをえさとしていることが一般によく知られています。しかし、陸生のものも多くいて、ミミズや巻き貝、ヤスデをえさとしています。

ホタルに関わるたくさんのお話を聞き、ホタルが飛ぶことは、僕たちの生活環境のバロメーターにもなることが改めてわかりました。

こうして追求学習をしてきたことを、レポートにまとめ、学校の仲間や地域の人たちに広めようと考えています。いつか、僕たちの平田町にもホタルが飛び交う日の来ることを楽しみにしています。

## 第13回日本ホタルの会シンポジウム報告

日本ホタルの会 本多和彦

去る2004年11月13日(土)、東京都恩賜上野動物園ホールにおきまして、日本ホタルの会、東京都恩賜上野動物園共催、環境省、農林水産省、国土交通省後援によるシンポジウム「ホタルを通じて身近な自然を考えるー心なごむ自然環境を取り戻そうー」が開催されました。当日は、約40名の聴衆が参加し、3人の講師による講演、総合討論が行われました。

はじめに、上野動物園の小宮園長と日本ホタルの会矢島会長からの挨拶があり、小宮園長からは、希少動物の域外保全のお話、矢島会長からは今年発行されたホタルマップからホタル保全のあり方について問題提起がされました。続いて、日本ホタルの会鈴木浩文さんから日本産ホタル類の分類について、図鑑によって記載が異なる種名、和名について、原記載論文や標準標本等の再調査により整理した成果について発表がありました。休憩を挟んでの後半は、身近な町でのホタル保護、環境保全の市民的取り組み事例が報告されました。まず、山梨県身延町下部地区(旧下部町)の深澤嘉元さん(写真)から下部地区のホタル復活までの活動について発表があり、続いて、神奈川県城山町の保坂健次さんから城山町におけるホタル保護活動について発表がありました。深澤さんからの下部町の取り組みは、町ぐるみ、集落が一体となった取り組みでホタル復活が進み、今は下部温泉の観光資源にもなっているという事例であり、一



方の保坂さんの活動は、市民の草の根的活動の継続がもたらした成果の事例で、身近な環境を考え、保全していく方法に様々なものがあることを再認識いたしました。

最後に、会場を交えた総合討論が行われ、「ホタル分類に係る遺伝子的な考察」、あるいは、「台風の多かった今年の下部町の川の様子」や「保坂さんの市民活動へ多様な視点による質問」など1時間あまりに渡って、多くの意見が交換されました。また、討論中で、矢島会長から「ホタルの幼虫の成長速度に個体差があり、これは河川増水に対する危険分散の可能性も考えられる」という示唆もあり、充実した討論となりました。

この総合討論は、本シンポジウムの特徴とするところですので、次回以降もより充実させていきたいと考えています。

**事務局からのお知らせ****会員証の発行について**

日本ホタルの会では、2004年度から会員証を発行することとし、12月から発送を行なっています。今年度会費の入金が確認された方から順次お送りしていますが、初年度ということもあり若干時間がかかっております。まだ届いていない方は今しばらくお待ちください。

**理事会報告**

■ 2004年9月18日

第13回シンポジウムの運営、ニュースレター第31号の編集ほかについて協議しました。

■ 2004年11月13日

ホームページの容量増加の件、ニュースレター第32号の編集、次回談話会の件について協議しました。

**お詫びと訂正**

ホタルのニュースレター30号に掲載されました小西正泰氏の「キイロボタルこぼれ話」に誤った表記がございました。

p.2下から5行目「Lampyris japonica」は正しくは「Lampyris compressa」です。訂正してお詫び申し上げます。

ホタルのニュースレター（第31号） 2004年12月31日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 矢島 稔

156-0041 東京都世田谷区大原 2-17-6

ステーションプラザ代田橋 410

(株)オーグラム内 日本ホタルの会事務局

TEL & FAX : 03-3328-7379

e-mail : KYW07337@nifty.ne.jp



**日本ホタルの会**  
JAPAN FIREFLIES SOCIETY

印刷 システム印刷株式会社

191-0031 東京都日野市高幡 1012-13

TEL : 042-591-1411 FAX : 042-591-7701